

《次回企画展》

蒔絵の名品

- ◆ 会 期 2021年5月15日（土）～ 2021年8月1日（日）
- ◆ 開館時間 午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
- ◆ 休 館 日 月・火曜日（但し、祝日は開館）
- ◆ 入 館 料 一般800円／大学・高校・中学生500円／小学生300円
* 障害者手帳をお持ちの方と付き添い者1名は50%割引
- ◆ 主 催 清水三年坂美術館
- ◆ 概 要

蒔絵は器面に漆で文様を描いた上に金粉・銀粉などを蒔いて定着させる漆工の加飾技法です。平安時代に基本的な技法が確立され、調度品から建築物にいたるまで、あらゆる器物や空間の装飾に用いられてきました。そして、幕末には爛熟期を迎え、多様な技法・意匠の作品がつくられるようになりました。

幕藩体制の崩壊に伴い蒔絵は一時衰退しましたが、その後、万国博覧会への出品を通じて欧米で高い評価を得たことなどを機に、輸出向け製品の分野に販路を見出し、活気を取り戻していきます。また、明治時代以降は、博覧会や競技会において蒔絵職人たちが切磋琢磨したほか、研究団体における活動や従来の徒弟制度によらない学校教育としての技術の伝承が行われ、更なる発展が図られました。この時代には皇室の求めに応じた格調高い名品も残されています。

このたびの展示では、幕末・明治・大正の漆工界において指導的な役割を果たした名工たちによる蒔絵の作品を一堂にご覧いただきます。

時代を経てもなお輝きを放つ作品の数々をどうぞご堪能ください。

◇ キャッチコピー

「時代を超えて輝きつづける蒔絵の精華」

[広報用の写真使用について]

当展覧会の広報記事をご掲載頂けます場合は、出品作品の写真（デジタル画像データ）を無償でお貸し出しいたします。ご希望の方はメールでinfo@sannenzaka-museum.co.jp（広報担当：杉）までご連絡ください。なお、ご使用に際しては下記の注意事項をご確認をお願いいたします。

- ・写真にはキャプションをつけてください。
- ・写真の二次使用は禁止いたします。
- ・掲載物が発行される前に、校正の段階で当館に確認をとってください。
- ・掲載物を1部寄贈してください。

◆ 主な展示作品

360度どこから見ても素敵☆



▲背面

▼扉内側



扉のなかには虫舞う夏の景...

《四季草花蒔絵堤筆筒》赤塚自得 (15.9×24.3×22.5cm)



▲蓋表

◀蓋裏

硯箱全体に広がる和歌*の世界...
これぞ明治工芸の雅の極致!

《勿来関蒔絵硯箱》白山松哉・守屋松亭、蓋表下絵：吉川靈華 (27.0×25.0×6.5cm)

* 「吹く風をなこそその関と思へども道もせに散る山桜花かな」源義家 (『千載和歌集』)



《二羽蝶蒔絵菓子器》
沢田宗沢斎
(9.1×12.7×4.4cm)



《蓮池に鯉図額》
池田泰真
(60.5×79.5cm)



《名取川蒔絵料紙硯箱》2代 木村表斎 (44.3×36.7×16.0cm／27.0×24.0×6.0cm)